

環境目標（１）多様な生態系と共生するまちづくり

～豊かな自然・文化の保全・創造と環境共生型社会資本の整備～

～ 現況 ～

生態系調査事業（循環社会推進課）

多様な生物が生息できる自然生態系を保全・改善していくことは、人間が人間らしく生きていくためにも必要です。こうした生物多様性の観点から、自然環境と野生動植物の生息・生育状況の実態を明らかにすることにより、本市における絶滅のおそれのある野生生物の「レッドリスト」「新城版レッドデータブック」として取りまとめ、今後の野生動植物の保護を進めていくための基礎的な資料とするとともに、市民の野生動植物への関心を高め、自然環境保全への配慮が促進されることを目的としています。

【取り組みの概要】

調査は、国及び県のレッドデータブック記載種を中心として、本市に特徴的な自然環境、野生動植物の生息・生育状況の把握を既存の資料による文献調査と現地調査で行っています。専門家で構成する「生態系調査検討会」を設置し、調査検討を進めるとともに、自然環境に対する市民の関心を高めるため、市民に協力を呼びかける市民参加型の調査を実施しました。



タガメ

平成 15 年 3 月には、生態系調査検討会を中心に調査・検討を進め、「しんしろの自然 - 生態系調査中間報告書 - 」としてまとめました。

平成 16 年度からは、本市の日本古来の在来種の生態系や農林水産業などへの被害を防止する目的で制定された外来生物法の施行に合わせ、市内の外来種の生息状況調査を行いました。

【新城市生態系調査検討会】（平成 18 年 3 月末現在）

所 属	氏 名	分 野
愛知大学文学部地理学教授	藤田 佳久	地理学（農山村・林野の研究）
鳳来町自然科学博物館館長	横山 良哲	地形・地質
豊橋市自然史博物館学芸員	長谷川 道明	昆虫
東三河野鳥同好会会長	皿井 信	野鳥
愛知県植物誌調査会	石川 静雄	植物
庁内委員 3 名		

【生態系調査状況】

- H11 メダカ・ネコギギの生息状況調査
- H12 タガメ・豊川の魚類の生息状況調査
- H13 野鳥生息状況調査、植物分布状況調査
地形・地質調査
- H14 ムササビ・メダカの生息状況調査
- H15 ホトケドジョウの生息状況調査
- H16 外来種の生息状況調査
- H17 外来種の生息状況調査
(ブラックバス、ブルーギル)



ホトケドジョウ

鳳来寺山自然科学博物館（鳳来教育課）

昭和 24 年 9 月、鳳来寺山麓にある鳳来寺高校で、国の指定名勝天然記念物・鳳来寺山を中心に、自然の宝庫である東三河を研究するために結成された「東三河の地質と鉱物の会」が田口鉄道鳳来寺駅の公舎を改造して開館させた博物館が鳳来寺山自然科学博物館の基になり、その後、自然研究の拠点として熱望されていた博物館が元村長で林業家の丸山喜兵衛氏の寄付により実現されました。（昭和 38 年 4 月 26 日）

博物館は、日本初の二重展示方式を取り入れ、町立の自然科学博物館としては全国的にも画期的なものでした。学術委員、運営審議会を設置し活動体制を整え、会館当初から野外学習や特別展などを活発に展開していきました。

平成 16 年 2 月 28 日には、開館 40 周年記念式典、翌日には半年間の臨時休館を終え、博物館をリニューアルオープンしました。

【野外学習会・展示活動】

野外学習会は、各自然分野の専門家である学芸委員により、開館からの 42 年間たゆまず開催されており、展示活動においては、足元の自然をテーマに郷土のすばらしさを様々な角度から掘り下げて展示されています。

展示活動

- 常設展示 鳳来寺山の地質断面図と岩石の露出展示（展示館 1 階）
きのこ展示コーナー（展示館 2 階）

特別展示（平成 16 年度）

展示会名	内容	期間	見学者数
豊川の流域から見た鳳来の自然	寒狭川、宇連川、黄柳川などの豊川流域に見られる自然の紹介	7月18日 ～8月31日	2,697人
きのこ展	鳳来を中心とした奥三河地方で見られる野性きのこの展示ときのこの役割について紹介	9月26日 ～11月28日	2,916人

野外学習会（平成 17 年度）

テーマ	開催日
きのこを調べよう	10月9日
鳳来寺山の紅葉	11月13日
川原で鳥や生きものを観察しよう	12月4日
スケッチを学ぼう	2月5日

こども自然講座開催状況（平成 17 年度）

テーマ	開催日
カタツムリとあそぼう	7月24日
石器づくりと原石さがし	8月20日
摘み草あそび	8月27日

教師向け自然と博物館利用講座（平成 17 年度）

テーマ	開催日
骨や歯から進化を学ぶ	7月23日
魚のしらべ方	8月6日
鳳来寺参道沿いの植物	8月23日

新城まちなか博物館（生涯学習課）

新城まちなか博物館は、新城の風土の中で生まれた新しいタイプの博物館活動で、仕事場や生活の場がそのままミュージアムであるということです。

「まち」の活動や暮らしの工夫がそのまま博物館であり、生涯学習のキャンパスとなります。順次まちなか博物館の指定を進め、現在は 16 館になりました。

【新城まちなか博物館指定一覧】

	博物館名	内容
1	日野屋商店	酒蔵
2	中西農村民具室	明治時代からの農村民具の展示
3	大原商家民具室	明治時代からの商家民具の展示
4	はたおり工房	高機による機織り
5	馬場彫金工房	鋼板のレリーフ・器の作成
6	原田藍染工房	本藍による絞り染め
7	出沢やままゆ養蚕所	やままゆ施設見学・養蚕体験
8	郷土の食品・さくら工房	そば・五平もち作り体験
9	日吉里山の水車	水車の見学・精米体験
10	竹細工工房	虫かご・歴史的建造物の制作
11	寒峰窯（陶芸）	陶芸及び制作
12	ねんどの里	石粉粘土による創作人形
13	イーハートーブ吉川	染色工房・染め絵制作
14	竹工房・雅夢	竹細工
15	明神窯（竹炭）	釜入れ・釜出し・材料集め体験
16	エコファーム河部農園	果樹栽培と柿酢作り

【設楽原の戦い】

日本三大決戦の一つとされる長篠・設楽原の戦いは、初めて新兵器鉄砲(火縄銃)を大量に使用し、その威力をまざまざと見せつけ、後の戦術に一大変革をもたらした日本史に残る著名な戦いです。

織田・徳川連合軍は、武田騎馬軍団の進撃を阻止する馬防柵を陣地の前にめぐらし、鉄砲隊を並べて待ち構えました。馬防柵に押し止められたその上に、3千挺の火縄銃が絶え間なく火を噴き、武田騎馬軍を惨敗させた戦法は、近代兵器鉄砲が伝統的な刀と馬の戦法に取って代わった決定的な瞬間となりました。

【設楽原歴史資料館・長篠城址史跡資料館】

設楽原歴史資料館・長篠城址史跡資料館には、戦国の分岐点を演じた「鉄砲の戦い - 設楽原の決戦」にまつわる人、経緯、火縄銃の果たした役割・その歴史を展示しています。

また、設楽原歴史資料館には、日本開国の基となった幕末の日米修好通商条約調印の立役者・岩瀬忠震についての資料も展示しています。



【設楽原決戦場まつり】

設楽原決戦場まつりは、「設楽原をまもる会」が中心となり、市民や地元の小中学校の生徒らによって、毎年7月に戦死者の供養、鉄砲隊の演武などが行われます。



鉄砲隊の演武



武者行列

【長篠合戦のぼりまつり】

長篠合戦のぼりまつりは、火縄銃射撃の実演や、迫力ある長篠陣太鼓・野点茶会・俳句会・物産展などが行われます。

町ごと屋根のない博物館（鳳来教育課）

鳳来地区における町ごと屋根のない博物館事業は、長い地球の歴史の中で形成された美しい自然と景観、郷土の先人が営々として形成・構築してきた個性あふれる伝統文化や歴史的事実を鳳来の誇る財産であると考え、平成10年4月に「町ごと屋根のない博物館構想」として打ち出しました。

平成11年12月には、町ごと屋根のない博物館構想シンポジウムを開催し、それ以後、毎年「町ごと屋根のない博物館行事」として、多くの自然観察や体験活動を実施してきました。現在、10種類の「ほっ・ほ・鳳来ウォーキングコース」を設定し、豊かな自然と奥深い文化を感じることができるようになっています。

【ほっ・ほ・鳳来ウォーキングコース】

コース	コース名	距離	難易度
A	山吉田・城山コース	10 k m	
	満光寺 柿本城跡 大田輪集落 城山山頂など		
B	長篠城周辺コース	10 k m	
	長篠城址 武田勝頼本陣跡 鳥居強右衛門磔刑跡 鳶が巣山など		
C	大島・七郷一色コース	10 k m	
	大島ダム ほうき滝 百間滝など		
D	大野・巣山コース	20 k m	
	阿寺の七滝 巣山収蔵庫 ろう石鉱山跡 中央構造線露頭など		
E	海老・連谷コース	15 k m	
	オパール採取地 川売梅の里 四谷千枚田 曼荼羅石 馬頭観音群など		
F	鳳来湖・乳岩コース	10 k m	
	弘法の井戸 乳岩 シャクナゲ遊歩道 鳳来湖など		
G	布里・塩瀬コース	20 k m	
	めがね橋 しし垣 布里用水掘削跡 塩瀬城址など		
H	玖老勢・鳳来寺山コース	10 k m	
	利修仙人護摩所 鳳来寺山自然科学博物館 鳳来寺東照宮 仙千代丸の墓など		
I	山びこの丘周辺コース	10 k m	
	山びこの丘 千原田町道 玖老勢駅跡 旧田口線跡道 馬頭観音など		
J	望月街道コース	10 k m	
	桐谷の渡し 馬の背岩 湯谷温泉 板敷川 湯谷園地 県民の森など		

【難易度】 家族向 中級者向 上級者向

キーワード 豊かな自然

施策の目標 豊かな自然の保全

評価

現存する自然の量的確保と質の維持・向上をめざし定期的な自然環境調査を行い、樹林・水辺・谷戸など生態系に重要な環境の保全・育成に努めます。

施策項目

生物生息環境の保全など生態系の維持・改善

新城市自然生態系調査員制度（循環社会推進課）

本市では、これまで国・県のレッドデータブックを参考に野生動植物の生息・生育状況調査を行ってきましたが、まだ、未調査の部分が多く残っています。そこで、多くの方に調査員として協力をさせていただきため、新城市自然生態系調査員制度を開始しました。

調査員は登録制のボランティアでいつでも参加できるようになっています。本市の自然に関する情報をいただき、専門家に検討を依頼します。

【調査員登録数と情報提供件数の状況】

年度	登録数	情報提供件数
H16	26名	92件
H17	27名	117件

課題・問題点等

次年度以降の展開

ボランティア調査員登録人数の伸び悩み。各分野の専門家の確保。市の教育部局との調整。

ボランティア調査員への情報フィードバックの充実を図り、現登録者の参加意識の維持と新規登録者の増員をねらう。

キーワード 自然とふれあうまち

施策の目標 自然に親しむ心の醸成

評価

子どもの頃からの自然への親しみは、健康で健全な情操を育みます。自然は、あらゆる階層の人々にとって潤いとやすらぎの空間です。生活圏のなかに豊かで親しみやすい自然を配し、日常的にそれとふれあう環境を創造するとともに自然を大切にす心の教育と学習に努めます。

施策項目

家庭・学校・社会での自然環境学習の推進

友の会（鳳来寺山自然科学博物館）

自然学習会などを通じ、自然に対する知識や理解を深めるとともに仲間の交流や友好を図ることを目的として「友の会」を設立しました。個人・家族・学校のクラブ単位で入会でき、様々な博物館行事等に参加できる仕組みになっています。

会員の期間は1年間で、平成18年度は全国813名の方が入会しました。

【友の会入会特典】

- ・博物館の学習会に優先的に参加できます。
- ・友の会の行事に参加できます。
- ・友の会の会報や、はくぶつかんだよりなどの出版物をお届けします。
- ・博物館の展示を自由に見学できます。
- ・友の会室や備品、図書等の利用ができます。

【鳳来寺山自然科学博物館特別展示】

展示会名	内容	期間
奥三河の自然博物展	新城市を中心とした奥三河地方の自然の紹介	3月25日～9月25日
きのこ展	新城市を中心とした奥三河地方で見られる野性きのこの展示ときのこの役割について紹介	10月1日～10月23日

野外学習会（鳳来寺山自然科学博物館）

博物館の各分野の学術委員を講師として、1年を通じ様々な学習会を開催しています。

【野外学習会実施状況】（平成18年度）

テーマ	開催日	参加人数
春の里山の植物	4月23日	70人
瑞浪の化石採集	5月14日	58人
桜淵の春の生きものを観察しよう	5月28日	49人
中央構造線探索	7月30日	49人
草はらの虫を調べよう	9月24日	37人
きのこを調べよう	10月15日	85人
乳岩の紅葉	11月12日	31人
川原で鳥や生きものを観察しよう	12月3日	23人
冬の自然と博物館探検	2月3日	29人

課題・問題点等	次年度以降の展開
テーマの固定化と指導者の高齢化。市内全域への広報の仕方とマスコミへの情報提供。	市内全域をうまく利用するための自然観察地点の把握や候補地の検討を行っていく。

施策項目

自然体験の推進

こども自然講座（鳳来寺山自然科学博物館）

子どものころから自然環境に触れ、虫や草花を観察したり遊んだりしながら、自然の大切さを実感するための機会として、「こども自然講座」を開催しています。

【こども自然講座開催状況】（平成18年度）

テーマ	開催日	参加人数
縄文人に挑戦！石のアクセサリーづくり	7月22日	39人
落ち葉の下の生き物を調べよう	7月23日	13人
野の花の世界をルーペでさぐる	8月6日	8人

課題・問題点等	次年度以降の展開
広報手段、特に小学校への周知の仕方。	食べられる野草、石器づくり、千枚田の生きもの観察など子どもの興味がわくものをテーマとして開催。